

次世代を担う子どもたちへ福祉の仕事の啓発 福祉の仕事親子職場体験バスツアーを実施

岐阜県福祉人材総合対策センターでは、岐阜県からの委託を受け、福祉の仕事に就きたい方への求職相談を行う他、福祉の仕事に対する啓発活動にも取り組んでいます。

今年度のバスツアーは、県老人福祉施設協議会、県老人保健施設協会、会員施設のほか、新たに中部学院大学、サンビレッジ国際医療福祉専門学校との協力を得て計7回実施しました。

平成29年度 実施状況	
実施日	施設名
7月26日	仙寿なごみ野
7月31日	大洞岐協苑
8月2日	コート・スマイル 中部学院大学
8月3日	静風苑
8月10日	丹生川苑
8月17日	西美濃さくら苑 サンビレッジ国際医療福祉専門学校
8月24日	ドリーム陶都

※せせらぎ緑風苑(8月7日)は、台風接近により中止

参加者の概要

県内の小学校高学年と中学生及びその保護者を対象に募集した結果、小中学生124人、その保護者105人のあわせて229人の参加がありました。

参加した理由(小中学生)

参加理由の多くは、「福祉の仕事に関心があるから」が最も多く、次いで「将来福祉・介護の職場で働きたいから」「親のすすめ」となっています。

職場体験について(小中学生)

参加した感想では、「大変良かった」「良かった」との感想を合わせて9割以上をしめ、その理由として、「普段見ることのない、施設の見学ができた」ことや、「職員の方から直接話が聞けた」こと、「いろいろな体験ができた」ことなどがある一方で、「時間が短かった」との意見もありました。



▲体験施設での、高齢者疑似体験の様子

福祉の仕事について(小中学生)

福祉の仕事についてどのようなイメージを持っていたところ、「大変な仕事だと思った」「魅力ややりがいのある仕事だと思った」「福祉の仕事についてもっと知りたい」という意見が多くありました。

大学・専門学校での見学・体験について(小中学生)

学校での授業の一部を体験し、「座っている人の立たせ方について詳しく教わられたし、寝ている人の楽な起こし方がわかってよかった」「経管栄養や痰の吸引の実技の体験ができてよかった」などの意見が多くありました。

養成校への進学について(小中学生)

各養成校での体験者に、福祉系の大学・専門学校への進学について聞いたところ、「わからない」という回答が6割と多かったものの、3割の参加者が「進学したい」との回答があり、福祉を学ぶことについて関心が高まったようです。

保護者の感想

また、一緒に参加した保護者からは、「大変良かった」と「良かった」との感想を合わせて9割以上をしめ、親子ともに、高い評価となりました。



▲中部学院大学でのミニ授業の様子